厚生労働科学研究費補助金（認知症政策研究事業）

併存疾患に注目した認知症重症化予防のための研究

分担研究報告書

「認知症者の併存疾患管理の手引き」作成のための文献検索・・・排尿障害

研究分担者　堀江重郎　順天堂大学大学院医学研究科　泌尿器外科学主任教授

研究協力者　高澤直子　順天堂大学大学院医学研究科　泌尿器外科学准教授

研究要旨

認知症と排尿障害に関する国内外のガイドラインの調査を行い、検索した論文から排尿障害・過活動膀胱が認知症に及ぼす影響について指針を作成するための論文を抽出した。

A. 研究目的

排尿障害と認知症との関連、重症度、排尿障害の管理状態について文献・診療ガイドラインからエビデンスを収集する。以下のクリニカルクエスチョンに注目した。

１　排尿障害と認知症は関係するか？

排尿障害は認知症に影響するか、排尿障害が認知症の進行の危険因子になるか。

２　認知症に過活動膀胱が併存する場合、過活動膀胱の治療で注意すべき点は何か？

３　認知症に過活動膀胱が併存する場合、認知症の治療（薬物療法・非薬物療法）で注意すべき点は何か？

B. 研究方法

Pubmed で 2021 年 11 月 20 日までの 10 年間の文献を検索した。国内外の認知症に関するガイドラインをインターネットで検索した。

研究結果

検索ワード：Demantia,dementi,Cognitive Dysfunction,congnitivefuncti,cognitive decline,cognitive impair,cognitive functi, Alzheimer Disease, Alzheimer で抽出した認知症に関連する 216063 文献と、検索ワード:Lower Urinary Tract Symptoms, Urinary Bladder, Overactive, Urinary Incontinence, Urge, Urinary Bladder, Underactive で抽出した下部尿路症状に関連する 19466 文献より

英語・日本語文献、メタ解析・システマティックレビュー診療ガイドライン・RCT でスクリーニングを行い、14 文献を抽出した。

これらの文献において認知機能障害と夜間頻尿には明らかな関連があること、尿失禁保有率は一般集団と比較し認知症集団で高いこと、下部尿路症状は認知症発症のリスクファクターであること、アルツハイマー病患者では病状の進行と尿失禁に相関があることが報告されていた。また過活動膀胱治療薬と認知機能については、オキシブチニンの服用が認知機能に影響する一方、ミラベグロンは認知機能への影響は認めないこと、認知症を有する患者の方が有さない患者より抗コリン薬を内服している頻度が高いことが報告されていた。関連ガイドラインについては、国内よりフレイル高齢者・認知機能低下高齢者の下部尿路機能障害に対する診療ガイドライン 2021、女性下部尿路症状ガイドライン、一般内科医のための高齢者排尿障害マニュアル、男性下部尿路症状・前立腺肥大症ガイドライン、認知症疾患診療ガイドラインにおいて、蓄尿症状に認知症が影響を与えること、過活動膀胱治療薬に認知機能への影響、認知症患者における排尿障害の対応について記載されており、海外のガイドラインでは EAU Guidelines on Urinary Incontinence in Adults. European Association of Urology(EAU), 2019.において、抗コリン薬と高齢者、認知機能についての記載がされていた。

その他、多発性嚢胞腎に関する啓発活動を行った。

D. 考察

認知機能障害と下部尿路症状とは関連しており、認知症集団における尿失禁保有率が一般集団と比較して高いこと、過活動膀胱治療における抗コリン薬は認知機能へ影響があると考えられるがその実態を調査した研究は少ない。両疾患の合併例に対する適切な治療指針の確立は課題であると考えられた。

E.結論　次年度は排尿障害と認知症との関連、重症度、排尿障害の管理状態についてその実態を調査していく。

F健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得

該当なし

2. 実用新案登録

該当なし

3.その他

該当なし